

インターンシップ報告書

群馬大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻
情報通信システム第二研究室 小林研究室所属 修士一年 八木拓也

2008年10月6日にアメリカへ渡航し、10月31日までの4週間の期間、アメリカ、ユタ州のCirque社のインターンシップに参加した。Cirque社はソルトレイクシティの近くにあり、自然が豊かな地域である。ソルトレイクシティにはモルモン教の寺院、テンプルスクウェアもあり、非常に穏やかな町並みでもあった。

インターンシップ先では、アナログ回路設計のグループに加わり、特にアナログ回路の基盤であるオペアンプの設計を行った。実際に製品としてこのオペアンプを用いるかは別として、製品に用いるためにどのような回路設計や特性解析を行えばよいのかということを学んだ。

各週に分けて、スケジュールにあわせてオペアンプの原理、特性解析の原理等を講義してもらい実際に回路シミュレータで設計を進めた。主に **Analog Integrated Circuit Design**、**CMOS Analog Circuit Design** のオペアンプの設計書（大学院レベルの標準的教科書）を読み進めながら、設計時の注意点や重要な部分を議論した。自分が理解の不十分な部分や疑問点を質問することもあったが、基本的なことでも、アナログ回路設計グループの人たちがみんな議論し合うということが印象的だった。

大学では経験できない設計過程やディスカッション、設計回路のレビューが貴重な経験となった。

会社の雰囲気もフレキシブルな環境で、上司、部下の関係というよりはフレンドリーな様子で、意見を求め合うことや議論している光景が非常に多かった。すべてにおいて前向きな姿勢・雰囲気だと感じた。またパーティーなどでは社員だけではなく、会社全体が家族も含めて交流しあいコミュニケーションを取り合っているということが非常に良い印象として残っている。

アナログ回路設計グループの人たちは、他の企業でも仕事に従事してきた経験を持ち、回路設計者のプロとして活躍しているということを強く感じた。逆にプライベートな時間についてもはっきりと区別し、自分の趣味や、ボランティア活動などの参加など充実している時間を過ごしている様子であった。アメリカの企業ではインターンシップの期間が1~3年という期間が多く、プロとして活躍するために技術を学び取るという話も聞いた。

自由な環境であるからこそ、自分の意思や考え方、経験が重要になっており、プロ意識が非常に大きいのではないのだろうかと感じることが多かった。様々な人種の人たちが住んでいる環境で、コミュニケーションや人との交流が最も大切にされているということを実感した。

